

## 追悼

## 名誉会長 松本達郎先生を悼む

西田民雄・平野弘道・棚部一成・利光誠一

北太平洋地域の白亜紀アンモナイト古生物学と中生代地史学の泰斗として国際的にも著名で、日本古生物学会の名誉会長である松本達郎先生が2009年2月7日に95歳で永眠されました。九州大学にて松本先生に教をいただいた者として、ここに、謹んで恩師の死に哀悼の意を表しますとともに、永年にわたる研究・教育の貢献に対し敬意と感謝の意を捧げます。

松本達郎先生は、1913年11月2日に東京でお生まれになり、幼いころより勉学を好まれ、東京高等師範学校付属小学校時代から常に優秀な成績で飛び級などにより上位校に進学されました。旧制静岡高等学校では、後に九州大学で再会する今野田蔵教授の下で地質学の教を受けます。

1933年に東京帝国大学理学部地質学科に進学し、在学中の1934年に、最初の地質学の論文である「片瀬層」(神奈川県江ノ島周辺の海岸地帯に分布する第四系)が地質学雑誌に掲載されています。卒業の年の1936年に地質学雑誌に掲載された卒業論文「九州大野川盆地の地質学的研究」が白亜紀の研究論文の出発点となり、以後続々と研究論文を出版されていますのは周知のことです。大学院時代(1936年～1939年)は、小林貞一教授のアメリカ留学中と重なり、その間は併任教授であった東北大学の矢部長克教授の指導を得ることになりました。現役時代の松本先生の机上には常に矢部長克教授の写真があり、謹厳実直、研究第一のお姿に私淑していらしたことが伺えます。大学院時代には矢部教授のご示唆を得て、北海道および樺太の白亜系を研究対象として選ばれ、北海道帝国大学の長尾巧教授、大石三郎教授や大立目謙一郎学士などの協力を得ながら白亜系とそこから産出するアンモナイトやイノセラムスの研究を進めていかれました(写真1)。

1939年に九州帝国大学理学部地質学科の開設に伴い、助教授として赴任されました。1944年にFundamentals in the Cretaceous stratigraphy of Japan(九州帝大理学部紀要, シリーズD, Part 1, 1942; Parts 2・3, 1943)により理学博士の学位を得ています。1944年には教授に昇進され、同年より1955年まで古生物学講座教授を、1955年以降は定年の1977年まで層序学講座教授を務め、九州大学地質学教室の発展に尽くされました。1969年には「環太平洋地域白亜紀アンモナイト類の研究」に対して日本学士院賞を受賞されています。現役教授時代には国際古生物学協会副会長(1972-1976)、日本古生物学会会長(1973-1977)、日本地質学会会長(1974-1976)などを歴任し、斯学の発展に尽くされました。

## Fossils

## The Palaeontological Society of Japan

九州大学定年ご退官後は名誉教授として研究を続けられる傍ら、1986年3月まで西南学院大学で科学の広い教育に携わられました。この間、1979年1月に日本古生物学会名誉会員に推挙され、1981年には同学会から「アンモナイトの系統分類学的研究ならびに白亜紀の地史の研究」に(昭和55年度)学会賞(横山賞)が贈られています。1983年4月には日本地質学会の名誉会員に推挙されています。1986年には勲二等瑞宝章が贈られました。九州大学理学部地質学教室同窓会による東京、福岡での祝賀会に迎えられた「お礼と感想」の中で満72歳を迎えておられた先生は「今後いっそうこの道に励み、究めたい」と記しておられます。そして1987年4月から、九州大学の近くのアパートに1室を借りて研究室を設けられ、ここを「アモンス文庫」と称してご研究とともに後進の指導を続けられました。

1994年6月には石油技術協会名誉会員に推挙されました。1996年12月に日本学士院の理学・地質学分野の会員に選ばれ、その後、毎月の上野での例会にはほぼ欠かさずに出ておられ、しばしばご研究の発表をされるとともに後進の方々の研究を紹介してこられました。また、その折には首都圏の若手の研究者や弟子に会い、激励するとともに、標本の点検をして指導をされました。そして、2005年10月には「アモンス文庫」の全図書が九州大学総合研究博物館に寄贈され、その後整理された図書類は、後進の研究者の利用に供されています。

松本達郎先生の研究業績は多岐にわたりますが、(1)白亜紀アンモナイト類、オウムガイ類、イノセラムス科二枚貝類の系統分類学的研究、(2)環太平洋地域の白亜系の国際対比に重点を置いた層序学的研究、が2本の柱でありました。白亜紀アンモナイト類の系統分類学的研究は、科や亜科の単位で、例えば1954年にはプゾシア科、1955年にはコスマチセラス科、1963年にはバキュリーテス科、1965～1971年にはコリニョニセラス科、1967年・1977年にはノストセラス科、1957年～1975年にはアカントセラス科など、殆どすべての分類群に及び、多くは1～5巻のモノグラフとして、九州大学理学部紀要、シリーズDなどから出版されています。オウムガイ類の研究は1964年の論文以来9編あり、特に1983年から1984年にかけては、日本古生物学会報告記事(英文誌)にCretaceous nautiloids from Hokkaidoとして、その1から5までの5編を続けて発表されました。また、白亜系の研究当初からイノセラムス類の研究の重要性に気づき、長尾巧教授と共著で1939～1940年にA monograph of the Cretaceous *Inoceramus* of Japanを北海道帝国大学理学部紀要、シリーズIVから出版されました。このモノグラフは北西太平洋地域の白亜系の化石層序の基礎研究として、今日にでも国内外で頻繁に引用されています。1968年からは大分市の野田雅之先生を中心とした共同研究者と共著で日本古生物学会報告記事などに多数の記載論文を出版しています。イノセラムス類の英文論文は23編に達し、これらの研究も国際的に大きな評価を得ています。

日本の白亜系の層序学的研究としては、上述の博士論文を初めとして、以後 1954 年の *The Cretaceous System in the Japanese Islands* (日本列島の白亜系)、1959 年の *Zonation of the Upper Cretaceous in Japan* および *Zoning of the Upper Cretaceous in Japan and adjacent areas with special reference to world-wide correlation* (いずれも日本の白亜系の化石分帯と国際対比) など多数に及びます。日本語の多数の論文では、白亜系各地の層序学的研究を基本とし、海進、海退の広域にわたる同時性と地殻変動を含めた地史学的研究が多数あり、研究の極めて早い段階から、堆積学的観察に注意を注がれたことが分かります。

1977 年 3 月の九州大学教授を定年退職した時点で、英語論文が 109 編、和文論文が 76 編、英文著書が 8 編、和文著書が 14 編に及んでいます (九州大学理学部研究報告、地質学の部、12 巻、3 号、1977)。ご定年の年の最終講義では、「停年ではなく、ルールによる定年である」と強調されたことが印象に残ります。事実、ご逝去された 2009 年の時点では、英語論文 245 編、和文論文 159 編に及んでおり、大学の公務を離れてからも停止すること無く、すべての時間を研究に捧げ、英語論文を 136 編、和文論文を 83 編も執筆されたこととなります。なお、先生の業績目録は、九州大学定年ご退官後、門下生によりほぼ 10 年ごとに 4 分冊になって出版されています。

ご退官後の先生の研究に対する情熱を伝える思い出の一つとして以下のことがあります。満 73 歳になられた頃、松本先生から佐賀大学在職中の西田に対して、北海道の白亜紀の地層が分布する要地をチームを組んで再検討した

いとのこと相談があり、雑用係をお受けしました。翌 1987 年からおよそ 15 年間にわたり道北の天塩山地の西側の古丹別川流域から道央の大夕張地域、そして天塩山地にもどり東側の雨竜川流域、最終は古丹別川流域と調査は続いていきました。この間、九州大学からは坂井 卓さんが継続的に協力し、北海道では博物館の方々、地元の愛好家の方々の支援がありました。途中、1993 年に風邪をこじらされ入院されていた時は北海道には来られませんでした。翌年には復帰されました。この時には、出発前に担当医から不調の時は医師に見せるべく携帯してほしいと 2 ページにわたるカルテを渡されておりました。しかし幸いなことに、野外に出ておられる間は快調で必要はありませんでした。調査で得た大量のサンプルを佐賀大学で保管しておりましたので、チームを組んだ 15 年間、ほぼ月に 2 回は佐賀までお出かけくださり、採集した化石の検討を続けてこられました。標本の良い写真を撮ってもらうべく化石を携えて大分市の野田雅之先生の元へも度々訪ねて行かれました。

先生は、20 歳代から 90 歳代半ばまで 70 有余年にわたり、毎年夏に北海道の白亜系の分布する地方へ調査に赴かれました (写真 2)。意識を失われてからのうわごと、「早く山に戻らなければ、学生が待っている」という言葉があったそうで、先生は最後まで白亜系のフィールドとともにあつたのです。

先生には長年にわたりご指導を頂きありがとうございました。どうぞやすらかに休みください。



写真 1. 松本先生 23 歳頃 (1937 年頃) の写真 (左)。大立目謙一郎氏 (右) の案内で北海道穂別地域の白亜系を調査しているところ。(写真提供: 野田雅之氏)



写真 2. 松本先生 78 歳の時の写真 (左端)。野田雅之氏 (左から 2 番目)、利光、蟹江康光氏 (右端) と北海道穂別地域の調査時の一コマ (1992 年 6 月 29 日)。